

# 令和元年度第2回習志野市市民協働こども発達支援推進協議会議事録

1. 開催日時 令和元年11月20日（水）午後2時～4時

2. 開催場所 ゆいまーる習志野 福祉交流スペース

## 3. 出席者

所 属	氏 名	出欠席	所 属	氏 名	出欠席
市民委員	阿部 友理	○	市民委員	伊藤 希実子	○
	遠藤 美里	○		松尾 公平	○
	奥津 佳奈	○	健康支援課	児玉 紀久子	○
	本宮 隆	○	障がい福祉課	荒井 直樹	○
	大塩 幸雄	○	こども政策課	三代川 昌弘	○
	太田 俊己	○	こども保育課	永田 容子	○
	田村 光子	○	ひまわり発達相談センター	北田 順一	○
	上野 基江	○	学校教育部指導課	嶋野 隆文	○
	小野寺 明美	欠	総合教育センター	深作 拓也	○
出席					17名
欠席					1名

事務局等 こども部 小平次長

習志野市発達支援サポートネットワーク会議

嶋野会長（指導課）、永田副会長（こども保育課）

ひまわり発達相談センター 内村主幹、續主査、吉村、竹内

傍聴人 1名

## 4. 議題

- (1) サポートネットワーク会議の報告
- (2) 発達支援施策の推進について
- (3) ライフサポートファイルについて
- (4) きらっといっぽの会2017の活動について

## 5. 会議資料

会議次第

席次表

資料1 ライフサポートファイルのモニターの概要

資料2 習志野市子ども・子育て支援事業計画（案）抜粋

資料3 ライフサポートファイル書こう会（案）の検討について

資料4 ライフサポートファイル（案）

資料5 ライフサポートファイルのモニター協力アンケート1回目

当日配布資料1 きらっといっぽの会2017の活動について

当日配布資料2 令和元年度発達支援研修公開講座レジュメ

## 6. 議事内容

会議録署名委員に阿部副会長を指名。

### (1) サポートネットワーク会議の報告

習志野市発達支援サポートネットワーク会議 嶋野会長より資料1及び4について説明。

【嶋野委員】次期子ども・子育て支援事業計画については、前回の協議会やその後に御意見を頂戴し、各担当課の事業の検討を進め、計画に盛り込む内容について御報告する。

ライフサポートファイルについては、10月下旬よりモニター調査を開始し、御協力いただいている保護者と支援者に実施したアンケート1回目の集計を行っている。また、乳幼児個別支援計画と個別の教育支援計画の様式変更を引き続いて協議中である。

【伊藤委員】モニター協力者について、未就学児の数が少ないが、なぜか。

【事務局（續主査）】年齢が低いほど、子どもの発達に対する課題をまだ受け入れきれず、保護者に迷いがあるようだと言われている。御協力いただいた支援者から伺っている。

【遠藤委員】ファイルを配るときに反応はどうであったか。保護者に誰でも書きはじめるものと伝わっているか。

【事務局（續主査）】今回、未就学児のモニターは、乳幼児個別支援計画を作成している方へ案内している。今後、全体に浸透させていくところである。

【大塩会長】就学児童の協力者は予定より多いようだが、習志野特別支援学校ではどうか。

【上野委員】クラス担任の先生のところには保護者がファイルを持ってきている。事業所から説明を聞いて、ファイルを受け取って、書き始めているようである。

【大塩会長】成人期のモニター協力者もファイルを書いている。私たちの時にこういうものがあればよかったねと、前向きに受け取っている。

【事務局（續主査）】支援者からは保護者がどのように受け取るか危惧する部分もあったが、他市から引っ越してきた保護者は先行してファイルを持っていることもあり、習志野市で始めることを前向きに捉えていただいているようである。

【松尾委員】親が7、80代となると、記憶を幼少期まで遡ることの難しさや不確かさがあった。基本的なところを20歳までに書き始めていると良かったのだろうと感じた。

### (2) 発達支援施策の推進について

事務局 續主査より資料2について説明。

【事務局（續主査）】子ども・子育て支援事業計画（案）の計画策定の趣旨にソーシャル・インクルージョンの視点が追加され、また、重点事業の家庭力の中に発達支援の充実が位置付けされるなどの修正がなされている。関係部局との調整の中で、ソーシャル・イン

クルージョンの視点が追加された意味は大きく、市としての方向性が明確になってきたと思う。

【太田委員】計画策定の趣旨に「多様な課題を持つ子ども」とあるが、最近の教育分野では、本人側の視点から「ニーズ」という言葉を使う。自分にとっての課題というより、周りから見ての課題ということが多い。ニーズは本人が必要としているものである。

【遠藤委員】重点事業に保育施設や放課後児童会の整備があるが、施設の数が増えるのか。

【三代川委員】新規に開設する施設と、小規模保育事業所から保育所になって定員が増える施設などを載せている。

【遠藤委員】発達の課題がある子の受入れ状況は、実際は施設によって取組みが様々である。

親としては、安心して子を預けられる施設が増えたと感じられるようになるとうい。

【太田委員】保育所はいろいろなニーズを受けている。定員増の取組みだけでなく、保育の質の担保についてもどう考えているか。

【永田委員】保育所、幼稚園、こども園とそれぞれあり、こどもセンターに子育て支援コンシェルジュを配置し、発達の相談ができる体制を作っている。保護者が迷わないように、地域の保健師やひまわり発達相談センターに適切に繋がられるよう配慮している。

課題のある子どもの受入れは、小規模保育事業所なども少しずつ広がって、進んできている。検討段階ではあるが、私立施設への訪問や指導などの関わりも考えていきたい。

【太田委員】習志野市は公立施設が多かったが、民間施設、私立化と変わってきたと感じる。事業所が多くなることで、個々の良さもあると思うが、市としてひとつの方向性を出して、取組みが浸透していくとうい。

【本宮委員】計画案の修正に反映させていける協議内容や意見の提出締切りはいつか。

【事務局（續主査）】12月中に出したい。

【大塩会長】今日の協議での発達支援施策についての意見をまとめ、こども政策課に提出し、最終的な計画を作っていただきたい。

【本宮委員】健康福祉部の習志野市地域福祉計画の策定会議にも参加している。どのような関わりか。

【事務局（内村主幹）】市の長期構想・基本計画の下に、各部局で作っている分野計画がある。健康福祉部が福祉の分野計画、こども部が子どもの分野計画を作っている、どれも関わりがあるが、今回はこの子ども・子育て支援事業計画にソーシャル・インクルージョンの視点や発達支援施策を具体的に協議し、意見を載せていく。

【本宮委員】計画の素案はもうできているが、これから意見を策定までに反映できるのか。

【三代川委員】現在パブリックコメントで市民から広く意見を頂いている段階である。今後のスケジュールとしては、この協議会をはじめ、子ども・子育て会議などに諮っていき、各会議から頂く意見を反映させ、策定に向けて素案を見直していく。

【本宮委員】前期計画の振り返りの箇条書きを、①②③と番号で並べると読みやすくなる。社会通念上の分かりやすさは大切だと思うが、市で書き方に決まりがあるのか。

【三代川委員】書き方に決まりはない。項目ごとに分けている。ひとつの事業に複数の内容が対応することもあるので、この場合は番号付けはしていない。

- 【松尾委員】番号は優先順位と思われる。箇条書きはそれぞれに並列する内容と読める。
- 【北田委員】各計画によって書き方はいろいろである。わかりやすい書き方を考えたい。
- 【太田委員】前期計画の振り返りのページでは「個別に支援を要する子ども」、基本施策では「支援が必要なお子さん」と記載があるが、「要する」は御役所言葉に感じられるので、「必要」という言葉に合わせたい。
- 【大塩会長】立ち位置によって言葉は違う。おっしゃるように「必要」という言葉がよい。
- 【阿部副会長】本人主体で考えていきたい。みなさんがその気持ちを持っていきたい。
- 【田村委員】子どもが私立保育園に通っていて、子ども自身が発達に課題のある子どもと関わっていく中で、先生たちは頑張っていると思うところが多い。
- 園庭など環境設定がすごく大切である。小学校併設だと園庭が広い。私立の園は狭かったり遊具がもう少し欲しかったり、大学や駅ナカの園は園庭がなかったりする。近隣の小学校に遊びに行けるように連携している。そういう環境面での融通があるとよい。
- 施設が増えている中で、どうやって保育を充実させていくか。特に発達に課題のある子の保護者は不安がある。支援や手立てのしおりなど説明を繋げる必要がある。

### (3) ライフサポートファイルについて

事務局 續主査より資料3及び5について説明。

- 【事務局（續主査）】モニター協力アンケート1回目の集計資料を御覧いただき、ここから見える課題を協議し、来年度の定着に向けた取組みに御意見をいただきたい。
- 【遠藤委員】年金申請にこのくらいの量を書かないといけない。障がいがあるか分からないかの段階でこのファイルを受け取ると、戸惑う思いも少なからずあるが、子どもが成長していくと、この意味が分かってくる。もう見たくないからと、保護者がその時どきの受診記録を手元に残してこなかったこともある。学校や福祉機関はその大切さをわかっている。障がい年金のためとはっきり言わなくても、ここが大事だと上手にアプローチして、記録作りを支えてもらえるとよい。
- 【奥津委員】最初こんなに書かないといけないのかと驚いた。中学生の子どもが生まれたときのことをもう思い出せない。書くことが苦手だと、大変さがある。パソコンやスマホで打ち込めたり、あとでいつでも書き直せると思ったりすると、そのハードルが下がる。
- 【松尾委員】書こう会の取組みに賛成である。会の目的はファイルを広く啓発することか、実際に保護者にファイルに書いてもらうことか。啓発には、一度にたくさんの人に集まってもらいたい。実際に書くためには、連続する集まりは一度出られないと次も行きづらくなり、参加者が先細りになることが見込まれる。定例の研修会や保護者会に合わせて実施していく方が企画の有効性がある。方法をしっかり考えたい。
- 【阿部副会長】実際に書き始めると、どこから書くか、最初から書くか迷う。それぞれにこれが自分のファイルと感じられることが大切である。最初に知らせるキャンペーンのものと、そのあと実際に書き続ける取組みのものの両方ができるとよい。また、一生懸命書いても見てもらえないと落ち込む。ファイルを受け取る側への取組みも考えてほしい。

#### (4) きらっといっぽの会2017の活動について

【伊藤委員】ホームページの見やすさの改善について、広報課と打合せをした。最初にホームページの方向性として、ひとりで悩んでいる保護者に周りへと繋がっていくきっかけになる情報発信と、みんなに発達に課題のある子どものことを知ってもらう情報発信の2つを考えた。発達障がいという言葉は前面には出さず、柔らかい表現にしてきた。だが、分かりづらい部分も出てきているので、もう少し踏み込んだ書き方を検討して、相手に届くようにしていきたい。

松尾委員から広報紙「ならたく」への掲載を御提案いただいている。地域に情報を届けたり活動の仲間を増やしたりする機会を検討したい。また、昨年度よりあじさい療育支援センターの保護者会と交流をしており、今年度は年明けの話し合いを予定している。学校、福祉サービスや医療、防災をキーワードと一緒に話をしようと伝えている。

【太田委員】ホームページのどちらの狙いも賛成である。それぞれのニーズなので、分けることもできる。子育て不安が入口になって初めての相談や支援に繋がるホームページと、障がいを受け入れられそうな段階のホームページが考えられる。また、その間で、あっちに行ったりこっちに行ったりと揺れている人もいる。

【伊藤委員】発達が遅れていたり言葉が出なかったり、子育てしている中で傷つくことや気持ちが揺れ動くことがいろいろあった。そこへ配慮するとともに、もう少し踏み込んだ表現で、最終的にはひまわり発達相談センターに辿り着けるようにしたい。

【松尾委員】「ならたく」は習志野市障がい者地域共生協議会就労支援部会の広報紙である。地域の中で働いていることや暮らしていることを知ってもらうため、習志野市商工会議所の会報への挟み込みや町内会回覧など約8千部を発行している。ホームページのあるある体験談は、イラストや文章が読みやすく、お母さんたちの視点からで、読むとあたたかい気持ちになれる。

【田村委員】これだけの人が関わってできたものである。ライフサポートファイル書こう会で、保護者の仲間づくりや勉強会とともに、きらっといっぽの会の活動を知っていただく取組みもできる。知ったときに自分も参加したいと思わせる周知が大切である。また、成人期、学童期、乳幼児期の保護者が繋がることはあまりないので、「ならたく」や先輩保護者の話などの取組みは意味がある。

【本宮委員】まちづくり会議に報告の時間を設けたり、各家庭に書類を配布や回覧したりしている。知ってもらうことは大切である。どんどん出して、活用していきたい。

【伊藤委員】あじさい療育支援センター保護者会との話し合いでは、大人になるまでの見通しや福祉サービスの利用の話が出た。近々のことは周りの保護者や所属施設の先生に直接聞ける。大人になってからは、調べると情報は溢れているが、聞ける機会がない。

【児玉委員】市で取り組まねばいけないことを課の中にも伝えて、具体的にやっていきたい。

【荒井委員】あじさい療育支援センターに勤務していた時に、保護者は将来のことが知りたいので、先輩保護者をお呼びして話し合える機会の大切さを感じた。きらっといっぽの会の取組みは保護者にとって心強いと思う。

【深作委員】花の実園に勤める40代の卒業生が、私が八千代養護学校の先生だったと気付

いて、楽しそうに働いている様子を話してくれた。学校でのことも楽しかったと覚えてくれているのだと思う。学校が自分にとって楽しい場所であることは大切だと感じた。

【本宮委員】ホームページは市が作っているのか、みなさんが作っているのか。

【事務局（續主査）】内容をきらっといっぽの会で考えて作り、市で載せている。

【本宮委員】1回で上手くできる訳ではない。作れる人や勉強している人に協力してもらって、こうやろうああやろうと言ってもらおうといい。参加したい学生もいるだろう。

【三代川委員】計画について皆さまから頂いた御意見を話し合っていきたい。今までの取り組みはあったが、計画の中で形に表れてなかった部分もやっていきたい。

【小平次長】活発に議論いただき、いろいろ御意見に気付きも多くあり、よりよいものにしていきたい。再度進捗を御報告させていただきたい。

## 7. 所管課名 こども部 ひまわり発達相談センター